平和統一を目指して　佐藤直子

私にはもうすぐ８９歳になる父がいます。１０人兄弟の６番目で、兄姉と両親の手伝いをしながら弟妹の面倒もみる役割で大変苦労して育ったと聞きました。生涯漁師をして厳格な海の男です。父は３人の子が小さいときに先妻を病気で亡くし、私の母が連れ子とともに後妻になり、のちに私が生まれました。

　母は海の無い山間部から嫁ぎ漁師の仕事を手伝い、右も左も分からないまま言われる通り動かないと「何やってんだ！」と叩かれながら仕事をしたそうです。

　私は幼少期から、小さいながらに父の厳格さやそれにおびえたり逃れようとする家族のピリピリ感を感じとっていました。その状況を打開したくておどけてみたりして、余計に父を怒らせ「やかましい」と怒号を浴びせられ、怒られるたびに悔しくて奥の部屋へこもって大泣きしていました。

　それでも私は、父と楽しく過ごせるようになりたい、母の苦労を減らしたいと思い、父の機嫌をよくするため好きな相撲のことやよく見るニュースを話題にして会話を沢山するようにして、母とは学校の話をしたり父での苦労話を聞いたりしました。

　とにかく父には当たり障りなくというのが鉄則のような家族でしたが、それでも私は父とは楽しく会話をしたいと思っていて、出来るなら父が怒らなくなるように願ってきました。

　そんな厳格な父ですが、母が晩年ガンで入院し余命わずかの時には、７０代半ばを過ぎながらも母の願いを聞いて病院に泊まって付き添い続けて看取ってくれました。老老介護にしてしまい申し訳なかったことと、母に散々苦労をかけた父が母に恩返しをしてくれているようで嬉しく思ったのと、感謝の気持ちでいっぱいでした。

　本当は愛情の深い父なのに、言葉が強い口調で怒り口調なので周りに恐れられたり煙たがられたりが多いです。それでも家族、親戚、地域など何か大変なことがあればすぐに行動し手伝い助けてくれるので、そんな父を尊敬しています。

　何度も家族の楽しい空間を作るべく父を穏やかにするため試行錯誤しましたが、そのたびに撃沈してきました。それでも、父の余生を穏やかに過ごしてもらうためにも、孫である私の娘に手伝ってもらい家族仲良く笑い声の聞こえる家にしていきたいです。そして、霊界の母と再会するときに優しい父の姿を母に見てもらいたい、そう思ってこれからも穏やかな雰囲気づくりを大切に過ごしていきます。

　朝鮮半島は悲しくも分断はありましたが、同じ韓民族であり南と北に家族がいます。家族は後世にも子孫がつないでいきます。あきらめない限り家族はひとつになれると信じています。穏やかな対話を大切につながって平和な日々が実現できることを心から信じております。